

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【地理歴史／日本史B演習】

1. 対象（全日制課程 〇年生 〇人）

大学短大や医療系専門学校への進学希望者を中心とするクラスのうち、〇年次で日本史Bを履修し、〇年に進級後、選択科目として履修をしている生徒〇名である。素直で前向きに努力する生徒達で、授業中の問いかけに対しても一生懸命考えて、答えようという姿を見せる。一方、中学で学習した内容の定着はかなり曖昧であり、その再確認や復習も欠かせない。授業で取り組む課題に対しても前向きに取り組むが、ともすれば教科書の本文から答えを見つけて抜き出そうという傾向も強く、複数の史料や視点をもとに多角的に考え、思考を記述できるようにする必要がある。

2. 単元名「第一次世界大戦と大正デモクラシー」（全10時間）

3. 単元目標

「普通選挙法と治安維持法が同時に制定されたのはなぜか」という課題に複数の史料や視点をもとに多角的に考え、理由を論述することができる。

4. 本時の目標

- (1) 21か条要求が出された国内事情に関心をもち、内閣、国民、元老それぞれの立場から意欲的に理由を追及する。（関心・意欲・態度）
- (2) 21か条要求が出された国内事情について内閣、国民、元老それぞれの立場を史料から読み取ることができる。（資料活用の技能）
- (3) 21か条要求が出されるにいたる政治過程を内閣、国民、元老それぞれの立場から考察し、論述にまとめることができる。（思考・判断・表現）
- (4) 21か条要求の内容とその影響について理解する。（知識・理解）

5. 授業展開

解決したい課題や問い
21か条要求は誰の意向により出されたのだろうか。

考えるための材料		
エキスパートA 「大隈内閣は対中国外交に何を求めたのか」	エキスパートB 「国民は対中国外交に何を求めたのか」	エキスパートC 「元老は対中国外交に何を求めたのか」
想定される活動	想定される活動	想定される活動
1917年に行われた加藤高明外相の講演記録から内閣の外交方針を読み取る。 加藤外相はドイツ権益を中国に返還することを交渉材料として満蒙における権益確保を意図した。一方で、1915年に総選挙を控える中、軟弱外交という批判を恐れ、国民の意向も無視できないと考えた。	当時の新聞や雑誌の論調から国民が対中国外交に求めたものを読み取る。 ドイツが最後通牒に応じず、膠州湾を日本の軍事力によって占領した以上、その権益を中国に返還するなどのもつてのほかである。満蒙の権益についても日露戦争でロシアから獲得したものであり、租借期間の延長は当然である。	元老の中心人物である山県有朋の考えを「対支政策意見書」から読み取る。 山県有朋は旅順・大連の租借期間延長など、満蒙における権益の確保は求めているが、膠州湾などにおける新たな権益の獲得には慎重であるべきと述べている。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

学習の流れ 本時（4／10）

課題をつかむ：一斉（5分）

エキスパート活動：エキスパートごとに3人ずつまとまったのグループ活動（10分）

A・B・Cそれぞれのエキスパートの内容について資料（史料）から読み取り、ワークシートに記入する。

A：「ドイツ権益と満州の権益延長の交換条件みたいだな」「国民はこれで弱腰って思うのかな？」

B：「国民はずいぶん強気だな」「当時は戦争で勝利した結果当然の権利として考えていたのかな？」

C：「元老の影響力は強かったけどこのときはどうなのかな？」「なんで山県は慎重だったのかな？」

ジグソー活動：A・B・Cすべてのエキスパートが一人ずつ含まれた3人グループ活動（20分）

A・B・Cそれぞれのエキスパートの内容を理解した生徒が発表し、それをもとに課題を追求する。

「政府と元老は同じような考えだよな？」「国民が強気だけど、結果的には国民の意見が強いのかな？」

クロストーク活動

班ごとに論述した内容を発表する。（15分）

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

21か条要求の背景には、内閣が選挙結果を気にしたため、国民の意向が強くはたらいっている。一方、元老の影響力は明治時代と比べて弱まっており、大正時代は外交においても国民の意向が強く反映される時代になった。

育成すべき資質・能力三つの柱から上記のあらわれを評価するための視点

① 知識及び技能	・21か条要求は中国に対して非常に強硬な内容を含むものであったことが理解できる。
② 思考力、判断力、表現力等	・エキスパート活動を通して内閣、国民、元老の三つの立場の考えを理解し、他のグループのメンバーに伝えることができる。 ・学習課題について多面的・多角的な視点から考察し、論述にまとめることができる。
③ 学びに向かう力、人間性等	・ジグソー活動において多のメンバーと協働して課題にとりくむことができる。

授業実践振り返りシート（授業前後）

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え（あらわれ）を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
Aさん	私は21か条要求が出されたのは「内閣」の意向が強く働いていたからだと考え。なぜなら、「ロシアとの戦争に備えて軍備を拡張したので、それにあわせての拠点の確保と、外にも影響を及ぼせるようにするため」だからである。	21か条要求には、の書き出しに続く文は書けていないが、話し合いの中で国民の意向が強くはたらいっていることは理解できている。
Bさん	私は21か条要求が出されたのは「元老」の意向が強く働いていたからだと考え。なぜなら、「元内閣総理大臣だった人がいて、その人たちが内閣にアドバイスなどをしていると思った」からである。	21か条要求には、の書き出しに続く文は書けていないが、話し合いの中で国民の意向が強くはたらいっていることは理解できている。
Cさん	私は21か条要求が出されたのは「内閣」の意向が強く働いていたからだと考え。なぜなら、「外交を決めるのは内閣」からである。	21か条要求には「国民の意向が強くはたらいていた。政府は国民に軟弱だと思われ、選挙で票が入らなくなるのを恐れ、国民の意見を聞いた。」

授業設計の振り返り	
解決したい課題や問い	課題について、活動の焦点化についてはある程度行うことができていたが、深い学びにまでつながったかという点については難しかった。検討会の中では、「誰の意向が強く働いていたのか」とした方がより良かったのではないかという意見が出された。
考えるための材料	大正時代に書かれた資料を現代語訳および要約をして提示したのだが、やや生徒にとって難解な語句が残されており、読み取りに時間がかかってしまった。また、制度ではなく思考や意向を読み取る内容のため、元の文章にどこまで手を加えるべきなのかの線引きが難しかった。
対話と思考	考えるための材料が高度であったため、理解することが精一杯になっており、対話をし、理解を深める余裕がない生徒もいた。三つの資料を読み取った上で話し合い、まとめるための時間はやや不足していた。
学習の成果	まとめの時間不足のため、学習の成果をまとめるという段階までたどり着けたのは3グループ中の1グループのみであった。新たな課題や問いを発見するということまでは難しいが、本時にまとめた内容はこれ以後の授業内容の伏線として活かすことはできた。